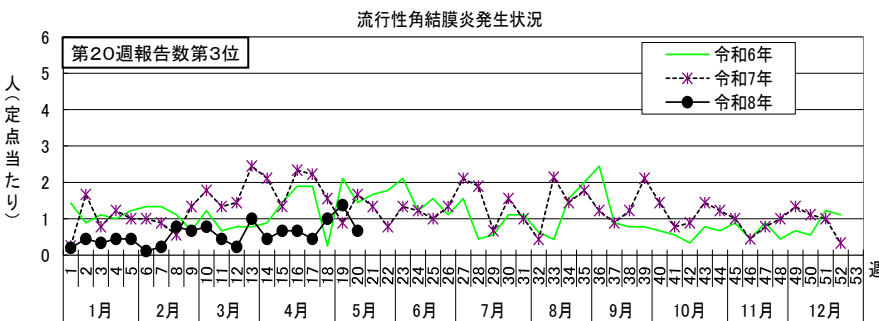
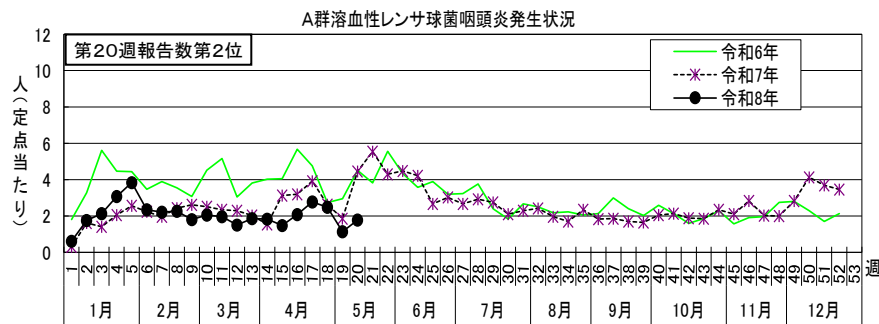
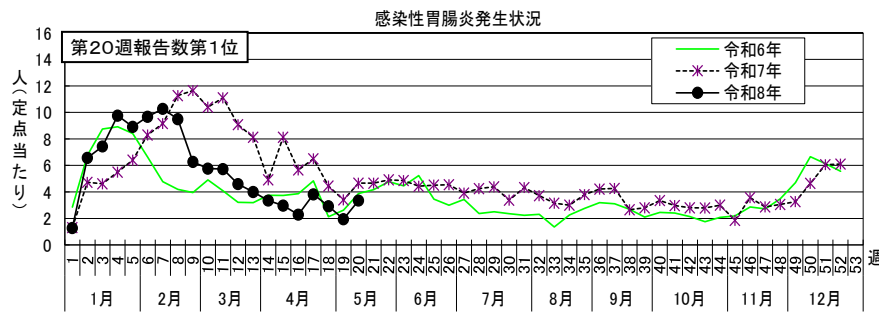


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年5月11日（月）～令和8年5月17日（日）〔令和8年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.35人と前週（1.95人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.78人と前週（1.14人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.67人と前週（1.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



ダニが媒介する感染症に気を付けて！

ダニの活動は春から秋にかけて盛んになるため、これからの季節はダニに咬まれる危険性が高くなります。病原体を保有するダニに咬まれることで、つつが虫病や日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等のダニ媒介感染症にかかることがあります。中でもSFTSは、平成25年に国内で初めて報告され、西日本を中心に報告されてきましたが、令和7年以降、東日本でも患者が発生し、神奈川県内での感染が推定される事例も報告されています。

ダニから身を守るためには、山や畑等で活動する際は長袖・長ズボンを着用する等、肌の露出を減らすことが大切です。また、ダニの付着に気が付いた場合は、無理に引き抜かず、医療機関で処置をしてもらい、数週間程度は体調の変化に注意をしましょう。

医療機関受診のポイント

- ダニに咬まれた後、数週間程度は体調変化に注意し、発熱等の症状がみられた場合は、医療機関を受診する。
- 医療機関を受診する際は、以下の3つを医師に伝える。



ダニから身を守るためには

長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する。
 シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴や靴下の中に入れる。

肌の露出を少なくする。
 帽子、手袋を着用し、首にはタオルを巻く。

眼に付いたダニはガムテープを使用して取り除く。

明るい色の服を着る。
 付着したダニが目視で確認しやすくなる。

屋外での活動後は咬まれていないか確認する。

足を完全に覆う靴を履く。
 サンドル等は避ける。

